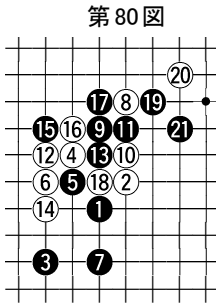


彗星ガイド (9)

九段 河村典彦

今回は白6の変化について黒白の攻防を調べていこう。

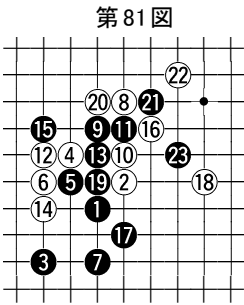
【第80図】黒5に対し白は6と打つのが最も強く、これからの攻防が面白い。彗星の一つの定型になるかもしれない。



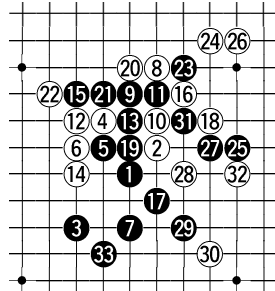
最終的には黒が先手を取れる。途中黒13が三々禁にならないのも黒7の効果である。ここでおとなしく白16と止めてしまうと、黒17の四ノビから黒19、21とされて簡単に負けてしまう。

【第81図】だから白は16と外止めするのが絶対となる。こうして連を作られると、黒としても攻め方が難しい。こういう時は無視して黒17とけん制しておくのがこれまた連珠らしい打ち方である。

対して白18と飛んでいくのは、黒19、21とここを先手で利かしてから黒23と止めておく。これなら黒17の組み立てが生かせられる。



第82図

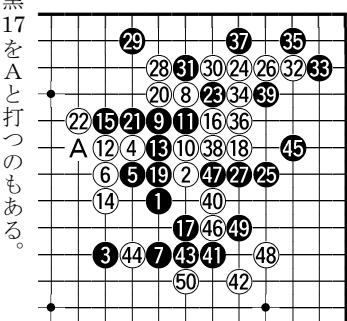


【第82図】白18ではまっすぐ白18と引く方が強く、反撃も狙っている展開だけは避けたい。

【第83図】白28からは実は白に恐ろしい反撃がある。白28から四を伸びまくって先手で白38に石を埋める手があり、それから白40に止めておく。これでまた45の四三が復活するので、黒は手抜きができない。黒41、43と伸びてから黒45

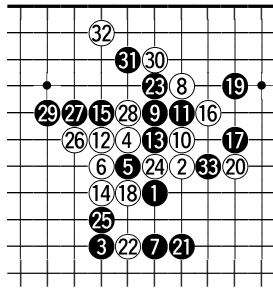
と止めるのだが、白46が四ノビとなっており、白48とうまく止められる。黒49でミセ手となるが、白50と止めておいて白が有利だろう。とにかく、白にAと先着されてはダメとしたもので、黒にはこの借金が残っているだけにこの展開は少々辛い。また、白46では47と打ってしまうのもある。遡って

第83図



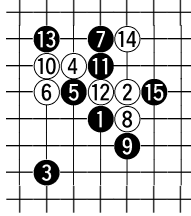
黒17をAと打つのもある。

第84図



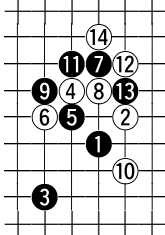
【第84図】結局、黒は前図を避けるために黒17と止めておく方が良さそう。こう打たれると白も止めておく必要がある。白18は黒の長連を狙った手なので、黒19と一旦先手で止め、黒23と使う展開をしたい。ただ、その前の黒21のトビ三は必要。白26にも黒27と伸びて長連筋にならないようにするのが重要。黒33まで止めてこれからの戦いになる。

第85図



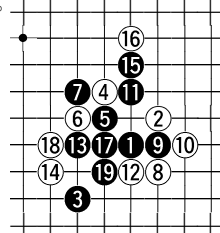
【第85図】もっと遡って、黒7と先に止めておくのが実戦的には打ちやすいだろう。こうなると、せっかくの研究も無駄になってしまうのだが、変化を知った上で打つと変化を知らずに打つのでは結果が違ってくるが多い。
白8は攻めが好きなら打ちそうな場所、黒9から手順に止めておくのが良いだろう。黒15と止めて黒は楽しみが多い

第86図



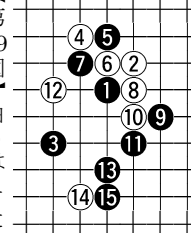
【第86図】白8ではこうやって防ぐのが一般的だろう。黒9と引き、白10には黒11とミせて黒13と止めておく。白も14と止めてこれからの戦いになるが、いつも書いているように黒3の石をうまく使う展開になれば黒が有利になるだろう。白としては、できるだけ黒3の石に近づかない方が良く、最終的に

第87図



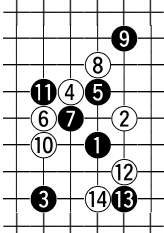
【第87図】黒7の変化。黒7とこちらに引くのもある。白8に黒9と割り込んでおく。白10は当然だが、黒も11と止めて連を止めながら連を作るといふ連珠の基本を実践することになる。
白12には黒13と引き、黒15と眠三を作る。白16には黒17から19と組んでこれからの勝負だが、黒少し忙しい展開になるだろう。やはり黒7は15の方が良いだろうか。

第88図



【第88図】黒5で本当に他の手が無いか探ってみよう。黒5と絡んでいくのがありそうに見える。白6には黒7と打たれるのでよくわからなくなる。白8と引き以下白12まで構えると、黒13から15で黒の勝ちとなる。黒3の石をうまく使われた格好で、こうなると黒の方が一手早い。

第89図



【第89図】白6はここに打って黒を脅かしたい。黒7で8はすぐ三々禁となるので、黒は7と打つのだが、白8から10でどうか。黒11に引かして白12と止める形がいい。黒13なら白14と打ってこればかりの確率で勝てそうだ。
ただ、この黒5は必敗かと言うとまだそこまで解明しきれていない。他の黒5ももしかしたら打てる着手があるかもしれない。